

初等中等教育における国際教育推進検討会報告（案）

ポイント

国 際 教 育

国際化した社会で、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要な態度・能力の基礎を育成するための教育

①他者を受容し「つながる」力 ②自らの国の歴史・文化に根ざした自己の確立 ③自ら発信し行動する力

基本的視点

現状と課題

国際教育を充実するための方策

国際教育の
総合的な推進

①国際教育の実践力の向上と「学びの広がり・深まり」をもたらす授業づくり

②国際教育資源活用のため、共有・連携の促進と支援体制の構築

③「海外の日本人学校での先駆的な取組を日本の学校教育に生かす」という視点

(1) 授業の実践

- ・一部の教員任せ
- ・単なる体験や交流に終始

(2) 教員の指導力

- ・実践的な研修の不足
- ・中核的教員の不足

(3) 海外派遣教員の活用

- ・派遣教員の活用不足
- ・活用方針の不足

(4) 外部資源の活用

- ・情報の不足
- ・コーディネーターの不在

(5) 海外子女教育

- ・成果の検証の必要
- ・状況の変化への対応

(6) 学校の多国籍化・多文化化

- ・外国人児童生徒の増加
- ・日本語指導充実の必要
- ・不就学や母語保持等の課題

1. 学校教育活動の充実

(1) 教員の実践力の向上

- 参加型・実践型の研修の実施

(2) 学びが広がり深まる授業づくり

- 優れた取組の普及
- 学習内容・方法等の開発・普及
- ITの活用
- 言語教育の充実

(3) 直接的な異文化体験の重視

- 高校生留学・学校間交流の促進

(4) 外国人児童生徒教育の充実

- 日本語指導の充実・不就学への対応
- 共に進める国際教育の推進

2. 国際教育資源の活用と連携のための支援体制の構築

(1) 海外経験を有する教員の活用

- 人事配置等組織的な活用の促進
- 派遣教員の情報発信の支援

(2) 個々の努力から共有と連携へ

- 連携のための体制づくり
- 優れた連携事例の普及

3. 海外子女教育の変化と成果の活用

(1) 海外の成果を日本の学校教育に生かす

- 海外子女教育の成果の発信

(2) 海外子女教育・帰国児童生徒教育の充実

- 実態・ニーズを踏まえた充実方策
- 特性に配慮した帰国児童生徒教育

(1) 国際教育拠点の形成

- 地域の実情や特色を生かし、先進的な取組を実施
- 大学等と連携し、カリキュラム・教材開発などの実践
- 地域の他の学校を先導
- 取組例

- 海外派遣教員の集中配置
- 海外姉妹校との交換留学
- ITの活用
- リーダー的態度・能力の育成

(2) 国際教育資源の共有化と連携の強化

- 指導力向上ワークショップの実施
- 国際教育データベースの開発
- 地域の人材・組織の連携支援
- 関係者の情報交換
- コーディネーターの配置
- NPO等の活動への支援
- 外部人材・組織の発掘